

社会福祉法人 健和会

令和2年度 事業報告

● 法人本部報告

1. 理事会・評議員会

第1回：理事会 令和2年6月6日

- 議案第1号 2019年度事業報告
- 議案第2号 2019年度決算報告及び監事監査報告
- 議案第3号 社会福祉充実財産の算定及び社会福祉充実計画の作成について
- その他 コロナ対策のための面会スペースの件、特別感謝金の件

第1回：評議員会 令和2年6月22日

- 議案第1号 2019年度事業報告
- 議案第2号 2019年度決算報告及び監事監査報告
- 議案第3号 社会福祉充実財産の算定及び社会福祉充実計画の作成について
- その他 コロナ対策の件、特別感謝金の件、補正予算の件

第2回：理事会 令和2年10月3日

- 議案第1号 2020年度 第一次補正予算（案）について
- その他 新型コロナウイルス対策の件、外国人技能実習生の件

第3回：理事会 令和2年11月14日

- 議案第1号 バーデハウス東員入居者からの苦情とその対策について
- その他 除草作業車購入の件

第4回：理事会 令和3年3月20日

- 議案第1号 令和3年度事業計画（案）について
- 議案第2号 令和3年度予算（案）について
- 議案第3号 就業規則、給与規程の変更について
- その他 社労士の変更、デイサービスの改築について、外部コンサルティング業者との契約について

第5回：理事会 令和3年3月23日

- 議案第1号 施設長の退任及び選任について

2. キャリアパス制度の完成

平成31年から取り組みを始めたキャリアパスプロジェクトがその発端となっている。キャリアパス制度は、ある職務に就くために必要な一連の業務経験とその順序、配置や異動のルートのことであり、より高い能力を身につける道筋や基準を明確化した人事育成制度のことを言う。以前からも評価制度を含むキャリアパスの仕組み自体は、あったものの、かなり曖昧な部分もあったため、約2年余をかけて、等級要件や目標管理、評価制度の構築、それらを基にした昇格や給与決定の詳細を定め、すべてを就業規則および給与規程と連動する

ように法人の規程類を適正化し、ようやく完成した形となった。また、法人のビジョンを明確にするため、キャリアパスプロジェクトチームで5年間の中長期計画の策定を行った。今後は継続して人事考課制度の定着、管理者能力の向上に努める。

3. 同一労働同一賃金に向けて

パートタイム有期雇用労働法改正に伴ういわゆる「同一労働同一賃金」の体制作りに向け、厚生労働省のガイドラインを参考に、現行の給与体系の分析を行い、12月に短時間労働者と正職員との不合理な差の解消に向けた給与規程の素案を作成した。12月以降、素案を基に細かな調整を行い、3月の理事会にて承認を得、新就業規則、新給与規程の完成に至った。

4. 新型コロナウイルスとの戦い

新型コロナウイルスの流行に伴い、感染症対策を徹底。アクリル板や、正面玄関および職員通用口に高性能なサーマルカメラを2台設置し、送迎時、家庭訪問用として、非接触性の体温計17台を常備、各所にオゾン殺菌装置を据え置くことで、安心して相談できる環境を整備。また、コロナ禍の中、窓越しで少しでも面会の機会がつかれるように中庭を改修。雨風や夏の日差しを防ぐために、屋根を設け、人工芝を貼り、テーブルとイスを配置。窓越し面会場所のガラスは、見やすさと安全面を考慮し、飛散防止の網目タイプから、全面強化ガラスへと交換。さらにお声が聞きやすいようにと、インターフォンも設置した。

また新型コロナウイルス対策に日々奮闘し、疲弊しつつある職員を励ますために、健和会より、全職員92名に対し、特別感謝金を4月に支給した。

5. 外国人技能実習生の受け入れと職員宿舎

前年度よりミャンマーからの技能実習生の受け入れを計画していたが、日本でのコロナウイルスの蔓延による入国制限に加え、ミャンマー国内での政情不安定から、10月受け入れが大幅に延期となり、いまだ入国の目途が立っていない状況にある。受け入れのための職員宿舎も10月に完成したものの有効利用には至っていない。

6. 法人直轄委員会の開催

(1) コンプライアンス委員会（構成員8名）

開催日…4/16・5/21・6/18・7/16・8/20・9/17・10/15・11/19・12/17・1/21・2/18・3/18

※コンプライアンスガイドラインに基づき、健和会職員が尊重すべき倫理・行動規範について話し合われた。

(2) キャリアパス委員会（構成員9名）

開催日…4/27・5/29・6/22・7/30・8/28・9/17・9/29・10/16・10/30・11/13・

11/27・12/16・12/28/・1/15・1/29・2/12・2/22・3/12・3/30

※健和会の理念・ビジョンを常に考えて行動し、そのもとに立てられた方針目標に対し、部署横断的なチームとして施設全体を考える場とした。そんな中、このチームにて新たな人材育成制度（キャリアパス）を確立させた。

目 標	<p>1. 利用者に寄り添って一緒に楽しみ、喜びのある生活を送っていただけるように介護職員の技術知識を向上させる</p> <p>2. 利用者が安心して生活できる安全なサービス、ひとり一人に合ったサービスを提供する。</p> <p>3. ご家族に施設の内容をお知り頂き、困った時に頼りとされる施設を目指す。</p> <p>4. 安定した稼働率を維持し、物品の管理を強化、コスト管理を行う。</p> <p>5. 外国人技能実習生の受け入れに向け指導体制を構築すると共に現介護職の介護技術・知識を向上させる</p>	
実 績	目 標 (値)	実 績 (値)
	1-1 年間12回の行事、毎月の浴室の飾り付け	1-1 毎月浴室の飾り付け行う。 年間行事23回実施
	1-2 月1回以上の行事食の提供、満足度80%以上	1-2 年間で22回行事食提供 満足度は平均82.4%
	1-3 各ミーティンググループから外部研修参加、年間5回以上	1-3 外部研修への参加、年間3件参加。
	2-1 全身の褥瘡処置者、月5件以内	2-1 褥瘡処置者、月平均5件 月5名以内は6か月
	2-2 アクシデント月5件以内 虐待防止マニュアルの作成	2-2 月間アクシデント月平均4.8件 月5件以内は7か月
	2-3 ①誤配膳 4件以下 ②食べ物の詰まり 1件以下 ③入浴介助時アクシデント5件以下	2-3 ①誤配膳 年間1件 ②食べ物の詰まり 年間5件 ③入浴介助アクシデント 3件
	3-1 ホームページ掲載 年4回以上	3-1 ホームページ掲載 年間6回
	3-2 ボランティア受け入れ 年4回以上	3-2 ボランティア受け入れ 年間0件
	3-3 入居者の写真郵送 年4回以上	3-3 年4回郵送
	4-1 特養稼働率 99% 短期稼働率 55% 全体稼働率 93%	4-1 特養稼働率 99.9 短期稼働率 45.4 全体稼働率 92.6
	4-2 月1回の管理点検	4-2 毎月の使用物品管理点検の実施
	4-3 2か月に1回の各ミーティンググループにて排泄物品の使用量の評価、対応	4-3 年間収支110,274円の削減。

	<p>5-1 指導計画の作成、指導体制を構築</p> <p>5-2 少人数での実技講習会 (移乗、嚙下、褥瘡) 年20回以上</p> <p>5-3 各ミーティンググループにて指導マニュアル作成。確認、修正</p>	<p>5-1 技能実習生の指導計画の作成完了</p> <p>5-2 年間27回の研修を実施。 移乗4回、関節拘縮14回 嚙下5回、コミュニケーション2回 ADL2回</p> <p>5-3 各ミーティンググループにて指導マニュアル作成、修正を行いファイリングを行った。</p>
<p>総括</p>	<p>1-1 コロナの影響で外出行事は行えなかったが、季節に合わせた行事（花火や初詣等）や室内でできるおやつレクが増え、目の前で調理や、流しそうめんなど、季節感を感じられ、喜ばれる利用者様が多くみられた。 又、初詣行事では中日新聞社の取材を受け、新聞にも掲載された。今後も利用者様に喜ばれる行事を考えていきたい。</p> <p>1-2 月1回以上行事食の提供を行うことができた。（年間22回行事食を実施） 満足度は平均82.4%と良好。一時満足度の低下があり『利用者様が好まれるもの』のアンケートをご家族へ実施。その結果をフィードバックすることで満足度の向上がみられた。今後は摂取不良の利用者様へ着眼し、どう工夫すれば満足して摂取していただけるかを考えていきたい。</p> <p>1-3 コロナウイルスの蔓延もあり3件の外部研修（人材育成、クレーム対応、虐待防止）にし参加出来なかった。参加者が復命書による伝達研修を行うことで、非参加者の知識の向上に繋げる事ができた。</p> <p>2-1 臀部以外の褥瘡の治癒に時間がかかってしまったことに加え、終末期となり身体状況が悪化している利用者様の褥瘡に対しては、有効な対応ができず、時間がかかってしまったことが原因と考えられる。今後、各専門職で連携し褥瘡の予防、早期対応に取り組む。</p> <p>2-2 前年の77件から58件とアクシデント数は減少されている。また、骨折事故が7件と多く介助中の事故が2件あった。事故に対しては、早期にカンファレンスを実施し対応の見直し、移乗、ADL、車椅子の基本操作、知識の研修を実施し介助の基本の見直しを行った。今後、再発防止の徹底、インシデントからの事故予防に努める。虐待防止マニュアルを作成し周知したことで職員の人権にたいする意識が高まった。</p> <p>2-3 ①誤配膳が1件あったが誤配膳防止マニュアルを再周知することで、再発は防げた。 ②異食事故2件、食物の詰まりが3件あった。介助中の事故でなく時間が経過してからの事故、利用者様に合わない食べ物の提供方法にて起こった事故であった。施設内研修を実施し、普段の様子観察の重要性、食事提供方法、介助、介助後の注意、緊急時の対応法を徹底した。 ③入浴介助時のアクシデント年間3件。年間5件以内の目標は達成できたが、車椅</p>	

	<p>子からの転落事故による骨折もあった。事故を教訓に、浴室のレイアウトを考え、少しでも広く使用できる様にし、安全に円滑に業務が回るように、改善した。</p>
3-1	<p>年間6回ホームページに掲載（流しそうめん、花火大会、クリスマス会、初詣等）利用者様の様子や施設の状況を発信することで、より多くの方に施設の活動を知って頂けるきっかけになったと思う。</p>
3-2	<p>感染症のためボランティアの受け入れは0件であったが、目標1にもある施設内行事に力を入れ多く行うことで利用者様に楽しんで頂けたのは良かった。今後、感染症の状況をみながら外部との交流を増やしていきたい。</p>
3-3	<p>栄養、リハビリの計画書とともに、3か月に1度のペースで利用者様が行事へ参加している写真等を郵送することで、現在の状況や施設での様子を伝える事ができた。コロナ禍で面会の機会が少なくなったが家族様より「普段の様子がわかり嬉しい」「元気そうでよかった」と感謝の手紙を何通も頂いた。今後も継続して郵送を行っていく。</p>
4-1	<p>短期利用者から入居に切り替えることで特養の稼働目標は達成できたが、反面、新たな短期利用者を増やせなかったため、短期稼働率は低迷した。</p>
4-2	<p>毎月、使用物品（センサー、車椅子、エアーマット、エアークッション等）の管理、点検を行う事で故障、不具合に対し速やかに対応できた。エアーマットは、3台の入れ替え購入を行った。その他の物は良好な状態が維持できた。今後も管理、点検を継続することで、利用者様に安心安全な生活を送って頂くとともに大切に物品を使用していく。</p>
4-3	<p>年間で110,274円もの削減が行えた。2か月に1度のミーティング時に前年度との比較を行い、ミーティング内に経費削減意識が生まれ、在庫の管理や使用頻度の少ない物品の発注を控えてもらう等、事務所とも連携がとれた。又、パットやパンツの見直しを定期的に行い、適切に利用者様お一人おひとりに合ったパットを使用していけるような環境を整えた。その効果もあり、看取りになった利用者様や、ADLが下がってきた利用者様（尿量が減ってきた）に対し最も適切な介護用品を使用するといった意識づけがされた。今後も利用者様に合った対応ができるよう意識していきたい。</p>
5-1	<p>指導担当職員を決め、指導計画書を作成し指導技能実習生の受け入れの準備ができた。現在の新人教育のシステムの見直しにもつなげる事ができた。</p>
5-2	<p>介護職員への基本的な知識や技術の研修を行い、質の向上を図ることができた。また、職員から利用者様の対応にて困っていることなどの抽出ができ、研修中だけでなく、日頃の業務の中でも利用者様に合った対応に繋げることができた。コミュニケーション、ADL研修は新人職員やその指導者を対象に行ったが、今後は他の研修と同様に介護職員全員へ行えるようにしていきたい。</p>
5-3	<p>各ミーティンググループ（食事、排泄、入浴、褥瘡、身体拘束）にて、指導マニュアルを作成することで、新人指導を統一できるようになった。また、マニュアルを作成することで、職員の知識の向上や介助を見直すきっかけとなった。</p>

令和2年度 ー看護部門ー

目 標	実 績
<p>1.個々の人権を尊重し、利用者、家族、双方の意見や要望に真摯に向き合う。</p>	<p>1-1.2 コロナ禍のガラス越面会では生活の状況を十分に把握していただけない為、食事摂取風景、創部の状態、浮腫等を動画撮影し、家人にお見せすることで、身体機能の低下や病状の悪化を理解していただき、信頼関係の構築に繋げることができた。家族からの疑問や要望にも柔軟に対応し、クレーム回避につながった。</p> <p>1-3 看取り件数：年間 12 件（桑名病院 1 件） 看取りケアに対するアンケート回収率 55%、回収分の満足度は 100%</p>
<p>2.利用者、職員の健康管理に努め、苦痛の緩和を目指す。</p>	<p>2-1 年間救急搬送件数 7 件。（昨年度比減） 2-2 感染対策強化し、罹患者 0 件 2-3 年間離職者 3 名</p>
<p>3.外部他部門と連携を取り業務遂行に努める。</p>	<p>3-1 コロナ禍での会議開催は困難な場合が多く、情報共有に支障来す為、グループラインを活用し、積極的な意見交換や状態報告を行なった。 3-2 各委員会への出席率 95%。外部研修参加無し 3-3 他科入院：桑名総合医療センター：2 名。 いなべ総合病院：1 名 森栄病院：2 名 青木記念病院：2 名（桑名病院 1 名）</p>
<p>4.医療行為、処置に関わる衛生材料全般のコスト削減に努める。</p>	<p>4-1 医療処置の頻度の程度を見極め、長期間となるものや、重症なものについては衛生材料の個人購入依頼を行った。 医療物品については桑名病院 Ns と連携を取り、在庫チェックを行い、期限切れ破棄ともにゼロであった。</p>
<p>5.看護職員のスキルアップ</p>	<p>5-1 医療トピックス掲示：毎月更新中。 外部研修：コロナ禍にて参加困難となったためスクラップ記事の共有等、知識のおすそ分けを実施。 利用者状況一覧：3 か月ごとに見直し更新中。 5-2 医務研修：3/5 新人介護士へ医務研修 『誤嚥窒息について』3 月～4 月 計 5 回開催 5-3 苑内研修参加率 100% 復命書提出率 100%</p>

<p>目 標</p>	<p>1. より良いサービスが提供できるように意見を取り入れ利用満足度を高める 2. 安心・安全なサービス、個々の利用者に合ったサービスの提供 3. ご家族や介護保険を利用した事がない人でも、デイのサービス内容を知ってもらえる施設をつくる 4. 安定した稼働率が維持ができるよう登録者を確保し消費コストの見直しを実施する。 5. 介護技術スキルアップだけでなく、他事業所・利用者家族との会話技術を身に着ける</p>	
<p>実 績</p>	<p>1-1 6ヵ月に一度、全利用者・家族へ、サービスについてのアンケートを実施し、返却率を80%以上にするとともに提供サービスの見直しを行う。</p> <p>1-2 月1回の食事会を行い、普段の食事とは違うメニューを提供しお楽しみいただく。</p> <p>1-3 毎月1回、上長が一般職員と面談する機会を作る。</p>	<p>1-1 接遇に関するアンケートを7月に実施 72名/93名返却あり 食事内容に関するアンケートを2月に実施 50名/63名返却あり 送迎時・介助時の対応内容や介助内容の見直しを行った。 上記に関してはフィードバックを行い改善に繋げた。</p> <p>1-2 毎月、食事会・喫茶・おやつレクを各1回ずつ実施した。普段とは違う料理に食事摂取量が増える利用者も多く、また自分で作れるおやつには男性利用者も積極的に参加される姿が多かった</p> <p>1-3 正職員、パート職員に対して部長がひとり1回以上面談を実施。業務内容だけでなく、様々な話題に触れ、働きやすい環境を作るようにした。</p>
	<p>2-1 毎月1回、リハビリ機器や入浴機器、医療機器の点検を行い事故を防ぐ。インシデント、アクシデントの評価を1ヵ月後に行い再発防止につなげる。</p> <p>2-2 全職員に対し介護保険制度の勉強会を行う。(月1人以上)</p>	<p>2-1 毎月のミーティングにて、インシデント・アクシデントの評価を行い、怪我をする利用者が出ないように職員全員での援助内容などを決めた。また、リハビリ機器や医療機器(吸引器等)、特浴機器などの点検を月末ごとに行った。</p> <p>2-2 新たに相談員として勤務する職員に対し、介護保険制度や相談員としての業務内容などを1年かけて指導した。また、一般職員からも要望があればその都度時間をもち勉強会を行った</p>

	<p>2-3 サービス内容に関するクレーム 5件以下</p> <p>3-1 デイ便りの作成、行事風景の写真の 掲示を行う（月2回以上）</p> <p>3-2 毎月1回以上ボランティア訪問を受 け入れ、新規ボランティアを1件登録 する。</p> <p>3-3 サービス案内の作成や外来者の受け 入れられる場所をつくる。 （令和2年9月期限）</p>	<p>2-3 送迎時の対応に関するクレームが2回 あり、送迎時の介助方法を運転手含め全 職員へ指導した。</p> <p>3-1 毎月デイ便りを作成し、利用者、居宅 介護支援事業所へ渡した。また、玄関内 に行事や誕生日者の写真を掲示した。 利用者が見ることで会話の機会が多くな った。また、家族からは「デイでの様 子がわかりよかった」と担当者会議など で報告していただいた。</p> <p>3-2 コロナ感染防止のため受け入れを止め たため、脳トレボランティアに訪問して もらったのみとなる。また、新規ボラン ティア（傾聴ボランティア）とも調整し ていたが、コロナのため中断となる。</p> <p>3-3 地域カフェ等に対し案内文を作成し持 参する予定であったが、感染対策のため 訪問できず、居宅介護支援事業所へデイ 便りを郵送するのみとなった</p>
	<p>4-1 登録者数：1日型：80名 半日型：35名 1日平均利用者を33名以上</p> <p>4-2 毎月1回の車両点検を実施し、車両 不良を昨年以下（3件以下）とする。</p> <p>4-3 2ヵ月に一度、健康や感染予防に関 する情報の掲示、配布を実施し、感染 症等での体調不良キャンセルを5% 削減する</p>	<p>4-1 令和3年3月時点で、1日型：72名 半日型：32名が利用登録 年間を通しての1日平均利用者は 33.4名/日であった</p> <p>4-2 毎月、運転手による車両点検を行った。 車両不良は0件。 物損事故による修理を3台行った。また タイヤホイール等の整備も全車種実施</p> <p>4-3 感染予防に関すること、マスクによる 熱中症対策や自宅でもできる運動などの 掲示を看護師と理学療法士で毎月行っ た。前年度の体調不良によるキャンセル は半日型4%・1日型2.2%であり、令 和2年度は半日型5.9%・1日型2.3% であった。体調不良によるキャンセル時 は、別日への振替案内を行うも、満員の 日が多く、振替もできずにキャンセルが 多くなった。</p>

	<p>5-1 デイサービス勤務3年以上の職員に対し、介護・対人技術の確認を行う。 (令和2年9月期限)</p> <p>5-2 各専門職にあった外部研修に1人、1回以上参加する。</p> <p>5-3 指導マニュアルの更新を行う。 (令和2年6月期限)</p>	<p>5-1 言葉使いや介助方法などの確認を全職員に実施。重介護者の介助方法などは理学療法士からも指導を行った。また、ご家族ご利用者に対してや、職員同士でも言葉使いが気になる職員が多く、その都度指導を行った。</p> <p>5-2 コロナ感染予防のため、参加のできる外部研修が少なかつた。3名の職員が1回ずつ外部研修に参加。</p> <p>5-3 新人に対して行う指導マニュアルの見直し、作成を行い、全職員が同じ内容での指導ができるようにした。</p>
--	---	--

令和2年度 - 居宅部門 -

<p>目 標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業所としてサービス全体の質の向上を図る 2. 多職種と連携し、利用者・家族の選択に基づき、多様な介護サービスが総合的かつ効率的に提供されるように配慮する。 3. 地域団体や地域住民との距離を縮め交流を深める。 4. 業務の効率化を図り、安定した稼働率を維持する。 5. 利用者の自立支援を目標とした計画書作成、マネジメントを実施する。 									
<p>実 績</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="279 1131 997 1176">実 績</th> <th data-bbox="997 1131 1476 1176">実 績 (値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="279 1176 997 1568"> <p>1 研修の目標を掲げ、研修計画作成。R2,4月～8月までの研修は中止、延期となる中、9月よりオンライン研修に参加。研修参加後、全ての研修を伝達にて情報共有を行った。 記録業務の遅滞や、処理しきれないケースをなくすためサポート体制を作った。</p> </td> <td data-bbox="997 1176 1476 1568"> <p>1-1 参加回数：正崎（3回）、後藤（5回）、竹内（11回）、山本（6回）、松下（6回）、成瀬（2回）</p> <p>1-2 常勤スタッフ各月10日までに記録完了</p> <p>1-3 新規ケース（困難ケース、予防の委託）のみ二人体制</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 1568 997 1713"> <p>2 ミーティング時に苦情に対してのレポート点検をし、再度振り返りを行う事で、サービスやマネジメント方法についての反省や今後の見直しをする。</p> </td> <td data-bbox="997 1568 1476 1713"> <p>2 苦情 3件</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 1713 997 1906"> <p>3 コロナ禍にて地域のカフェや活動が中止となる。訪問できない為、郵送や広報でPR活動を行い、地域貢献活動である、家族介護教室は、感染予防の対策を取りながら開催する。</p> </td> <td data-bbox="997 1713 1476 1906"> <p>3 家族介護教室2回開催（6回企画）</p> </td> </tr> </tbody> </table>	実 績	実 績 (値)	<p>1 研修の目標を掲げ、研修計画作成。R2,4月～8月までの研修は中止、延期となる中、9月よりオンライン研修に参加。研修参加後、全ての研修を伝達にて情報共有を行った。 記録業務の遅滞や、処理しきれないケースをなくすためサポート体制を作った。</p>	<p>1-1 参加回数：正崎（3回）、後藤（5回）、竹内（11回）、山本（6回）、松下（6回）、成瀬（2回）</p> <p>1-2 常勤スタッフ各月10日までに記録完了</p> <p>1-3 新規ケース（困難ケース、予防の委託）のみ二人体制</p>	<p>2 ミーティング時に苦情に対してのレポート点検をし、再度振り返りを行う事で、サービスやマネジメント方法についての反省や今後の見直しをする。</p>	<p>2 苦情 3件</p>	<p>3 コロナ禍にて地域のカフェや活動が中止となる。訪問できない為、郵送や広報でPR活動を行い、地域貢献活動である、家族介護教室は、感染予防の対策を取りながら開催する。</p>	<p>3 家族介護教室2回開催（6回企画）</p>	
実 績	実 績 (値)									
<p>1 研修の目標を掲げ、研修計画作成。R2,4月～8月までの研修は中止、延期となる中、9月よりオンライン研修に参加。研修参加後、全ての研修を伝達にて情報共有を行った。 記録業務の遅滞や、処理しきれないケースをなくすためサポート体制を作った。</p>	<p>1-1 参加回数：正崎（3回）、後藤（5回）、竹内（11回）、山本（6回）、松下（6回）、成瀬（2回）</p> <p>1-2 常勤スタッフ各月10日までに記録完了</p> <p>1-3 新規ケース（困難ケース、予防の委託）のみ二人体制</p>									
<p>2 ミーティング時に苦情に対してのレポート点検をし、再度振り返りを行う事で、サービスやマネジメント方法についての反省や今後の見直しをする。</p>	<p>2 苦情 3件</p>									
<p>3 コロナ禍にて地域のカフェや活動が中止となる。訪問できない為、郵送や広報でPR活動を行い、地域貢献活動である、家族介護教室は、感染予防の対策を取りながら開催する。</p>	<p>3 家族介護教室2回開催（6回企画）</p>									

	<p>4 目標値に向かって、各スタッフが意欲的に新規獲得に努めた。新規依頼が低迷する時期があり、病院、包括、他事業所へ営業活動に努めた。年度末になり目標ラインへのベースづくりができる。</p> <p>・介護予防、介護保険請求は竹内ケアマネを担当者として、総括して請求業務を行い、新規の被保険者情報など、再チェックすることで、請求ミスを抑えることができた。</p>	<p>4</p> <p>・常勤 1名あたり登録者数37名/月 給付管理数28名/月</p> <p>・非常勤① 登録者数 19,3名/月 給付管理数17名/月</p> <p>・非常勤② 登録者数 15,8名/月 給付管理数13名/月</p>
	<p>5 事例検討は、会議のみならず、日常的に行い、事業所として抱えきれないケースに於いては、他職種や包括支援センターと連携を図りながら支援できた。</p>	<p>ケアプラン点検 8件実施 事例検討会 8件実施</p>
<p>総括</p>	<p>笹尾、城山地区に第2包括支援センターができ、窓口が変わったことで、新規依頼の減少がみられた。</p> <p>新規獲得に向けて、町外へPR活動を行い、四日市市とのパイプづくりができた。</p> <p>年度末になり、ようやく目標に向けてのベースづくりができた。</p> <p>次年度への安定した稼働率につなげていきたい。</p> <p>また今年に入り、利用者の重度化が見られ、要介護3以上のケースが40%を超える月が見られるようになってきている。特定事業所加算については、今後、加算条件がクリアできるようであれば、算定の見直しを行いたい。</p>	

令和2年度 - パーデハウス東員部門 -

目標	目標値	実績
<p>入居者の心身の小さな変化に気付き、気持ちよく過ごしていただけるように支援を行う。</p>	<p>① 介護の基礎知識、救急法の研修を実施する。 (各年1回)</p>	<p>消防署員による救急法の講習を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、実施できなかった。施設内で行える研修(ノロウイルス感染予防等)を検討したが、対応が困難とのことで実施できず。外部研修も参加できなかった。</p>
	<p>② 全入居者に満足度アンケートを実施する。 (6ヵ月に一度)</p>	<p>5月に食事内容に関するアンケート、11月に接遇に関するアンケートを入居者全員に行った。食事内容の結果はフィードバックし、改善できるものは改善した。接遇に関する結果は職員会議で報告し、各自注意があった。</p>

	③ 緊急対応マニュアルを作成する。 (令和2年9月期限)	地震災害に対してのマニュアルが不足しているため、作成した。 また、入居者全員の緊急時の連絡先なども見直しを行った。
入居者一人一人安全・安心して過ごせるようなサービスの提供を行う	① 各居室の備品(温水器、蛇口)のメンテナンス・修繕を行う。 (令和3年3月期限)	温水器は修繕の必要な居室を優先に交換を行った。 蛇口パッキンの交換はコロナウイルス感染予防のため、館内への立ち入りを禁止したため、次年度へ変更した
	② アセスメント表の聞き取りを行う。 (令和2年9月期限)	全入居者分のアセスメントの更新を行った。また、桑名病院の主治医以外の入居者分の薬情も更新した
	③ 主治医との連携、相談に使用する書式を作成する。 (令和2年9月期限)	書式を統一し、緊急時には使用できるように整理した
施設内の活動や様子を知ってもらえるように開かれた施設を創る	① 施設ホームページ、老人ホーム検索サイトの更新を行う。 (年12回以上)	毎月1回以上のホームページの更新を行うとともに、検索サイトへは空き部屋の更新を行いながら、資料請求を求められた場合は、当日内にパンフレットの発送を行った ホームページ更新9回、検索サイト更新12回、資料請求対応15件
	② 施設内の行事などのお便りを作成し、地域カフェなどで配布する。(年6回)	コロナ感染予防のため、地域カフェでの配布は行わなかったが、6.8.10.12.2月に県内の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所へ郵送した
	③ 夏季にイベントを実施する。 (1回)	7月に入居者・家族とのBBQの行事予定を立てたが、コロナ感染予防のため、中止となった。8月に入居者と職員のみで花火大会、12月にクリスマス会を行った。定期的に行っていた外出行事も中止した。
安定した稼働率を維持できるように空き部屋の管理を行い、消費コストの見直しを行う	① パンフレットを20カ所以上郵送する。	パンフレットの請求があった希望者にはその都度郵送し、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへは年間702通のパンフレットの郵送を行った。
	② 請求ミスを平均3件以下にする。	4月分で1件の請求ミスあり。請求書・領収書の書式や入力方法を変更し5月以降の請求ミスはなし。

	③ 高額滞納者を3人から1人へ減少させる。	どこの銀行からでも振替のできるセディナを取り入れたことにより、1名は滞納が無くなる。残り2名の、1名は定期的に請求連絡を行い支払いはされている。残り1名が高額滞納となっていたが、5月現在退去となり、清算待ちである。
職員自身のスキルアップ 指導者の育成 を行い適切な指導が行える 技術を習得する	① 指導者としての研修へ参加する (年1回)	コロナ感染予防の為、外部研修の中止が多く、参加できる研修に限られたが、10月より権利擁護の研修に参加し、他職員との伝達研修も行うことで、実践できた
	② 全職員が専門的な研修へ参加する。 (年1回以上)	外部研修への参加はできなかったが、施設内研修を全職員参加した
	③ 主任以上の職員が各職員と面談を行う。 (1職員2回以上)	主任・パート職員ともに5.7.8.10.12月に面談を実施した

●その他、家族介護支援事業（東員町よりの委託事業）

※目的：要介護高齢者を介護する家族等または介護が必要となりうる方々に対し、介護の知識や技術、用具に関する情報や、また軽度の運動や調理、医療情報などを提供することにより介護者の健康維持や身体的精神的な負担を軽減することを目的とする。

※対象：東員町内に住所を有する高齢者を介護している家族、近隣の援助者および家族介護に関心を持つ者

※実績：令和2年度の実績は別紙のとおりであるが、コロナ禍の中、中止が続き、参加人数は前年度が開催5回中止1回の計60名であったのに対し、開催2回中止4回で26名の参加しか得られなかった。

令和2年度 東員町家族介護支援事業実施報告書

社会福祉法人 健和会

実施日および時間	場所	テーマおよび内容	講師	参加人数
令和2年9月3日 13:30～14:30	東員町笹尾コミュニ ティセンター	家族介護継続 支援事業	南川 インス ク トラ	0名
令和1年10月22日 13:30～14:30	東員町笹尾コミュニ ティセンター	家族介護継続 支援事業	パー ク レ ジ デ ン ス ケ ア マ マ ネ ジ ャ ー	11名
令和1年11月12日 13:30～14:30	東員町笹尾コミュニ ティセンター	家族介護者教 室	森脇 薬剤師	15名
令和1年12月 13:30～14:30	東員町笹尾コミュニ ティセンター	家族介護継続 支援事業	グ ル ー プ オ カ リ コ	0名
令和2年1月 13:30～14:30	東員町笹尾コミュニ ティセンター	家族介護教室	川 端 福 祉 用 具 相 談 員	0名
令和2年2月 13:30～14:30	東員町笹尾コミュニ ティセンター	家族介護教室	水 谷 理 学 療 法 士	0名